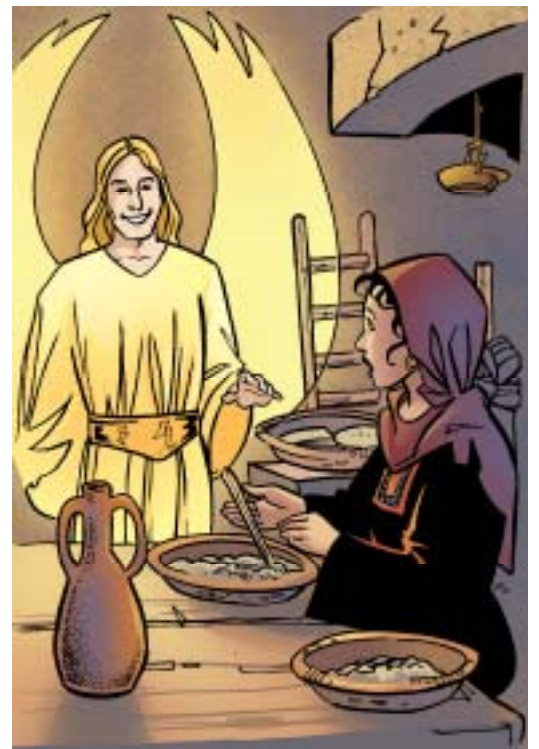


きょう み しんしん はじ ものがたり だい ぶ  
興味津々、初めての クリスマスの 物語、第1部



マリヤは若くて美しい少女だった。そして、大工のヨセフと結婚する約束をしていた。2人は北イスラエルのナザレという村に住んでいた。

結婚式も近づいたある夜のこと、天使がマリヤに現れた。それも、ただの天使ではない。とてもえらい天使だ。ガブリエルという、天使長だよ。天使長というのは、大勢の天使の最高司令官なんだ。大勢の兵隊を率いる軍隊の最高司令官みたいだね。(聖書には、神様がとても大切なお告げをするために天使長のガブリエルをつかわしたという話がいくつか書かれているよ。)



み使いガブリエルが、神からつかわされてガリラヤのナザレという町のひとりの処女のところに来た。この処女は、ダビデの家系のヨセフという人のいいなずけ\*で、名をマリヤといった。(いいなずけ：結婚の約束をしている相手の人)

み使いは、入って来るとマリヤに言った。「おめでとう、恵まれた方。主があなたと共におられます。」

しかし、マリヤはこの言葉にひどくとまどって、これはいったい何のあいさつかと考えこんだ。1

(いったいこの人はだれなの？ それに、何の何を言っているのかしら？)とマリヤは思ったんだ。天使が現れるなんて、ふつうのことじゃないからね。だから、マリヤがどんなにおどろいたかは、想像できるよね。

ガブリエルは言った。「こわがることはない、マリヤよ。神はあなたを祝福したいのです。あなたはじきに身ごもって、男の子を産むでしょう。その子をイエスと名づけなさい。彼はすぐれた者となり、いと高き方の子と呼ばれます。また、神である主は、彼にその父ダビデの王位をお与えになります。彼はとこしえにヤコブ(イスラエル)の家を治め、その国は終わることがありません。」<sup>2</sup>

天使長ガブリエルが話していたのは霊的なイスラエルのことで、信仰によって神の国の一員である人たちのことだよ。イエス様を神様のみ子であると信じる人にとって、イエス様は王様なんだ。

マリヤはみ使いに言った。「どうしてそのようなことになりえましょう。わたしはまだ男の人を知らないのに。」

み使いは答えて言った。「聖霊があなたの上に臨み、いと高き方の力があなたをおおいます。それゆえ、生まれる者は、神の子と呼ばれます。」<sup>3</sup>



マタイによる福音書には、主の天使がヨセフに現れて、将来の妻がもうすでに身ごもっているというショッキングな知らせにヨセフを備えさせたことが書かれている。自分の婚約者がほかの人の赤ちゃんを産むんだとわかったら、男の人にとってはかなりの悩みの種になるだろうからね。たいがいの人は、きっと婚約をやめるだろう。ヨセフもきっと、マリヤとの婚約をやめることを考えていただろうね。だけど、神様はヨセフにある夢を見せられた。夢の中に主の使いが現れたんだ。

「ダビデの子ヨセフ。おそれないであなたの妻マリヤをむかえなさい。その胎に宿っているものは聖霊に

よるのです。

マリヤは男の子を産みます。その名をイエス(「救い主」という意味)とつけなさい。この方こそ、ご自分の民をその罪から救ってくださる方です。」<sup>4</sup>

イエス様を身ごもるとマリヤに話した後、天使はほかにもおどろくような知らせを教えてくれた。「もう1つ、良い知らせがあります。不妊



\*の女と 言われていた あなたの いとこ エリサベツも、老年ながら 男の子を 身ごもっています。神には、なんでも できない ことは ありません。」<sup>5</sup> (\*不妊：子供ができないこと)

エリサベツが 年を取って、もう 子供を 身ごもれない ことは、マリヤも 知っていた。だから、エリサベツも 子供を 産むのだと 天使から 聞いて、マリヤは びっくりした。

この なぞめいた、かつ すごい 知らせを 聞いて、マリヤは 天使に 答えた。「わたしは 主のはしためです。あなたの お言葉を 全部 信じます。」<sup>6</sup>

その後 すぐ、マリヤは エリサベツの ところにとまりに 行った。ザカリヤと エリサベツの 家に 着くと、自分の 人生に 起きていることを エリサベツに 話しもしないうちから、おどろくような ことが 起こった。



エリサベツが マリヤの あいさつを 聞いたとき、その 子が 胎内\*で おどった。エリサベツは 聖霊に 満たされ、大 声を あげて 言った、「あなたは 女の中で 祝福された 方、あなたの 胎の 実も 祝福されています。主の 母上が わたしの ところに 来てくださるとは、なんという 光栄でしょう。ごらんさい。あなたの あいさつの 声が わたしの 耳に 入った時、子供が 胎内で 喜びおどりました！」<sup>7</sup> (\*胎内：おなかの中)

まるで、赤ちゃんの ヨハネが イエス様の 母親の 声を 知っていたみたいだね。

エリサベツは こう 言って マリヤを はげました。「主が 語られたことは 必ず 実現すると 信じた 人は、何と 幸いな ことでしょう。」<sup>8</sup>

次の 節は、神の み子 イエスの 母親と なれて どんなに 幸せかを 美しく 歌い表したものだ。聖母マリヤの 賛歌、または マリヤの 歌とも 呼ばれている。

「わたしの 魂は 主を あがめ、わたしの 霊は 救い主である 神を 喜びたたえます。身分の 低い、この 主のはしためにも 目を 留めてくださったからです。今から 後、いつの 世の 人も わたしを 幸いな 者と言うでしょう。」<sup>9</sup>

マリヤは、エリサベツのところに三か月ほど滞在してから家に帰った。さて、エリサベツは月が満ちて、男の子を産んだ。



ルカによる福音書の第1章には、エリサベツが子供を産む前に何が起こったか、もう少しくわしく書かれている。エリサベツと夫のザカリヤには子供がおらず、2人はそのことで非常につらく悲しい思いをしていた。ある日、ザカリヤが神殿で祭司の務めをしていると、主の天使がザカリヤに現れ、エリサベツが子供を産むと告げた。

だけど、ザカリヤは信じなかった。エリサベツは子供を産むには年を取りすぎていたからだ。それで天使はザカリヤの口をきけなくし、こう告げた。

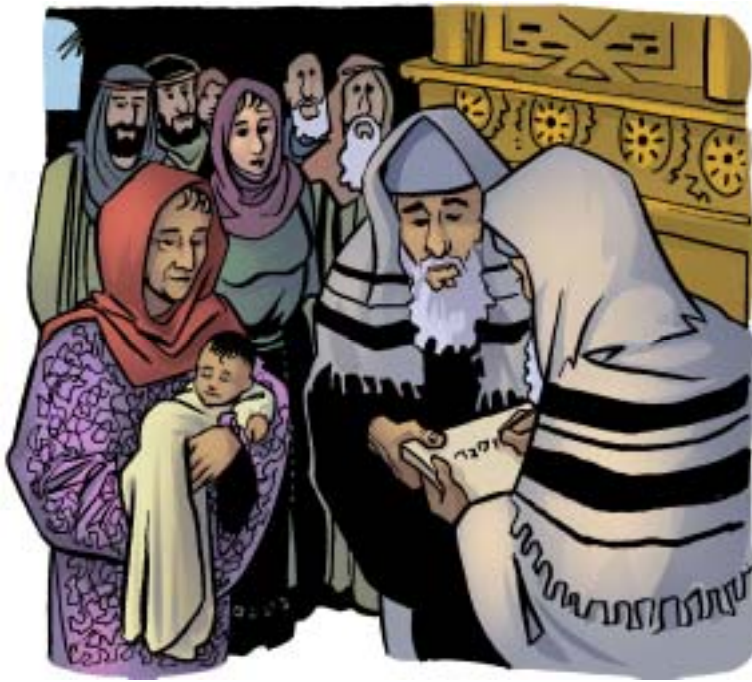


「ですから、見なさい。これらのことが起こる日までは、あなたはおしになって、ものが言えなくなります。わたしの言葉を信じなかったからです。わたしの言葉は、その時が来れば実現します。」<sup>10</sup>

もちろん、エリサベツが妊娠した時、ザカリヤは天使が言ったことを信じた。実際に起こったからね。

神はザカリヤに、赤んぼうを「ヨハネ」と名付けるように告げた。だけど、そのころは生まれた子供には父親の名前を付けることになっていたんだ。赤んぼうが生まれると、エリサベツは言った。「彼は、ヨハネという名前にしなければ！」すると、それを聞いていた人たちが言った。「それはちがうよ！ 父親はザカリヤだから、赤んぼうの名前もザカリヤにしないと！」

そこで、ザカリヤはこう書きつけた。「その名はヨハネ！」



ひかり へいわ を もたらすために、イエスが 地上に やって来ることもね。

その時だ。神に 告げられたことに 従って、赤んぼうの 名前を ヨハネにするという 自分の 信仰を きっぱりと 表した 時、神は ザカリヤの 口を 開かれた。ザカリヤは、また 話すことが できるようになったんだよ。

ザカリヤは 聖霊に 満たされ、イエス様についての 美しい 預言をした。神が 約束されたように、力強い 救い主が ご自分の 民を 救いに やって来るとね。また、自分の 子 ヨハネについても、大人になったら 人々に 罪の ゆるしによる 救いを 知らせ、救い主のために 道を 備えるという 預言をしたよ。それから、霊的な 暗やみに いる 人たちに 命と

( 続く。 )

#### 脚注：

- 1 ルカによる福音書 1:26-29、新改訳聖書
- 2 ルカによる福音書 1:30-33 参照
- 3 ルカによる福音書 1:34-35 参照
- 4 マタイによる福音書 1:20-21、新改訳聖書
- 5 ルカによる福音書 1:36-37 参照
- 6 ルカによる福音書 1:38 参照
- 7 ルカによる福音書 1:41-44、口語訳聖書
- 8 ルカによる福音書 1:45 参照
- 9 ルカによる福音書 1:47-48、新共同訳聖書
- 10 ルカによる福音書 1:20、新改訳聖書

デービッド・B・バーグによる著書の編集：クリスティ・S・リンチ

さし絵：ジェレミー 彩色：サビーン・リッチ

Copyright c 2010年、ファミリーインターナショナル

"The Intriguing Story of the First Christmas, Pt.1"--Japanese <http://www.mywonderstudio>